

直前英作文



問題

【1】

解答

※設問内の空所部分には下線を引いている。

- (1) 彼は私にいくつかのよい忠告をしてくれた。

He gave me some good suggestions [tips].

- (2) 彼の家はせまい。

His house is small.

- (3) その街の道はせまい。

The streets of the town are narrow.

- (4) 彼は心のせまい人間である。

He is a narrow-minded person.

- (5) 1時間で戻ってきます。

I'll be back in one hour.

- (6) ドイツはフランスの東にある。

Germany is on the east of France.

- (7) イギリスはフランスの北にある。

Britain is to the north of France.

- (8) 青森は日本の北にある。

Aomori is in the north of Japan.

- (9) 私はその本を 50 万円で買った。

I bought the book for ¥500,000.

- (10) 彼は裏口から家に入った。

He entered the house by [at ; through] the back door.

- (11) その会合は6時から始まった。

The meeting began at six o'clock.

- (12) その試験は土曜日から始まる。

The exam begins on Saturday.

- (13) 2学期は9月から始まる。

The second term begins in September.

- (14) 第二次世界大戦は1939年から始まり、1945年に終わった。

The Second World War began in 1939 and ended in 1945.

- (15) デビッド・ジャクソン博士は2020年から第三次世界大戦が始まると預言しております。

Dr. David Jackson predicts that a Third World War will begin in 2020.

解説

◆日本語に引きずられて間違いやすいものを集めた。

- (1) 彼は私にいくつかのよい忠告をしてくれた。

He gave me some good suggestions [tips].

- 「忠告」の意味の不可算名詞なら advice。
- 「忠告」の意味の可算名詞なら, suggestions や tips を用いる。
- (2) 彼の家はせまい。
His house is small.
○「面積」が「狭い」のは small, 「広い」のは large。
- (3) その街の道はせまい。
The streets of the town are narrow.
○街の中を通っている道は street。
○道路や廊下が「狭い」のは narrow で表す。
- (4) 彼は心のせまい人間である。
He is a narrow-minded person.
○「心が狭い」とは「考え方が狭い」ということである。
○この意味での「狭い」は narrow。
○「頭の中の考える所」が mind。
○「心の狭い人」は, 「narrow な mind を持っている人」と考えるのが英語の頭。
○したがって, a narrow-minded person となる。
○この -ed は名詞に付く形容詞語尾で「～を持った, ～の特徴のある」の意味。
- (5) 1時間で戻ってきます。
I'll be back in one hour.
○「今から～後」には, in を用いる。
○I'll be back の will は「その時点での決意」を表す。
○この be 動詞は「動作」を表す。
- (6) ドイツはフランスの東にある。
Germany is on the east of France.
○「接触」しているので on the east of ~
○「ドイツ」は Germany。
○German なら「ドイツ人」。
- (7) イギリスはフランスの北にある。
Britain is to the north of France.
○「離れて」北にあるので, to the north of ~
- (8) 青森は日本の北にある。
Aomori is in the north of Japan.
○「～の中の北」なので in the north of ~
- (9) 私はその本を 50 万円で買った。
I bought the book for ¥500,000.
○「売買価値」は通常「交換の for」を用いる。
- (10) 彼は裏口から家に入った。
He entered the house by [at; through] the back door.
○かつて, 「裏口から」なら by the back door, 「表口から」なら at the front door

と言われていたが、現実には、裏口でも表口でも「～から」は by, at, through が用いられる。

○しかし、from は絶対に用いられない。

- (11) その会合は6時から始まった。

The meeting began at six o'clock.

○日本語の「～から」に対応する英語は受験生の弱点（設問 11 ～ 15）。

○「時間」は at。

- (12) その試験は土曜日から始まる。

The exam begins on Saturday.

○「曜日」は on。

- (13) 2学期は9月から始まる。

The second term begins in September.

○「月」は in。

- (14) 第二次世界大戦は1939年から始まり、1945年に終わった。

The Second World War began in 1939 and ended in 1945.

○「年号」は in。

○「第二次世界大戦」は the Second World War または World War II。

- (15) デビッド・ジャクソン博士は2020年から第三次世界大戦が始まると預言しております。

Dr. David Jackson predicts that a Third World War will begin in 2020.

○「年号」は in。

○「第三次世界大戦」は a Third World War（まだ起きていないので、the が付かない）または World War III。

【配点】 15 点（各 1 点）

【2】

解答

※設問で下線を引いた箇所には、英文の該当箇所にも下線を引いている。

- (1) 私はZ会で働いております。ここだけの話ですが、うちの会社は来年アメリカに進出します。

I work for Z-kai. Between ourselves [you and me], we are going to expand our business to the United States next year.

- (2) 日本ではアメリカのようにクリスマスを祝いません。

In Japan we don't celebrate Christmas the way they do in the United States.

- (3) ニュージャージー（New Jersey）ではテキサス（Texas）とは少々違ったアクセントで英語を話します。

In New Jersey they speak English with a slightly different accent than they do in Texas.

- (4) 客「何時に開店するのですか。」

店員「11時ぴったりの開店です。」

Customer: When do you open?

Clerk: (We open) at eleven sharp [on the dot].

- (5) (日本に住んでいる日本人から、ニュージャージーに住んでいる米国人に)「ニュージャージーではこんなに寒い日があるのですか。」

(From a Japanese in Japan to an American in New Jersey) Do you have days this cold in New Jersey?

- (6) あの学校には、英語さえできれば誰でも入れます。

They accept almost anyone in that school as long as he is [they are] good at English.

- (7) 「今度のテレビの調子はどうですか。」

「草^な薨様のおっしゃる通りで、よく映ります。」

"How does your new TV work?" "It gets good reception, as Kusanagi says."

解説

- ◆自由作文の問題で頻出する対話完成問題の対策のために口語的な問題を集めた。とりわけ代名詞の用法には注意。

- (1) 私はZ会で働いております。ここだけの話ですが、うちの会社は来年アメリカに進出します。

I work for Z-kai. Between ourselves [you and me], we are going to expand our business to the United States next year.

○「～という会社で働いている」は **work for [at]** ～ を用いる。

○ work in は work in Shibuya のように所在する「場所」がくるのが普通というのが、テキサス州・ジョージア州・ニュージャージー州出身インフォーマントのコメント。

○「ここだけの話ですが」 **between ourselves [you and me]**,

○「うちの会社」は **we**。

○「進出する」には advance は用いない。

○初めての進出には **expand one's business to** を用いる。

○ in を用いるとすでに活動を行っていることになるので, **to** がよい。

○「進出します」はすでに決まっていることを表すので, **be going to** を用いる。

- (2) 日本ではアメリカのようにクリスマスは祝いません。

In Japan we don't celebrate Christmas the way they do in the United States.

○「日本では」とあるので, In Japan で始めて, 主語は **we**。

○「アメリカのように」の「～のように」は **the way (that)** ～を用いる。

○～の主語は **we** との対立で, **they** (話し手と話し相手を含まない一般)。

○「クリスマスを祝う」 **celebrate [observe] Christmas**

- (3) ニュージャージー (New Jersey) ではテキサス (Texas) とは少々違ったアクセントで英語を話します。

In New Jersey they speak English with a slightly different accent than they do in Texas.

○ (2) と同様の用法の **they** を用いる。

○ they do in Texas と続くので, from よりも **than** が普通。

- (4) 客「何時に開店するのですか。」

店員「11 時ぴったりの開店です。」

Customer: When do you open?

Clerk: (We open) at eleven sharp [on the dot].

○「店員」に対して聞いているので, **you**。

○一応「店員」は自分の働いている店なので **we**。

○「11 時ぴったり」は,

at | **eleven sharp** [on the dot : precisely]
| **exactly eleven**

- (5) (日本に住んでいる日本人から, ニュージャージーに住んでいる米国人に)「ニュージャージーではこんなに寒い日があるのですか。」

(From a Japanese in Japan to an American in New Jersey) Do you have days this cold in New Jersey?

○「主語」は「話す相手」の **you**。

○「こんなに寒い日はあるのか」は **Do you have days this cold** ~?

- (6) あの学校には, 英語さえできれば誰でも入れます。

They accept almost anyone in that school as long as he is [they are] good at English.

○「あの学校には誰でも入れます」→「あの学校は誰でも受け入れる」と考える。

○「学校側」を表す代名詞は **they**。

○「誰でも」は anyone だが, logical に考えて **almost anyone** とするとよりよい。

○「英語さえできれば」

as long as he is [they are] good at English

○文法的には anyone は **he** で受ける。語用的には **they** も可。

- (7) 「今度のテレビの調子はどうですか。」

「草薨様のおっしゃる通りで, よく映ります。」

“How does your new TV work?”

“It gets good reception, as Kusanagi says.”

○「今度のテレビの調子はどうですか」は動詞の work を用いて, **How does your new TV work?**

○この work は「(本来の) 機能を果たす」の意味。

○「(テレビが) よく映ります」は,

○ **It (= The TV)** | **gets good reception.**
| **works well [fine].**

○ The picture is clear on this TV (set). とも言えるが, How does your new TV work? の答えとして, テレビが主語の解答例が自然。

【配点】 14 点 (各 2 点)

【3】

解答

- (1) その2人は話をすれば、必ずけんかになる。(talk を用いて)
Whenever [Every time] they talk to each other, the two have an argument.
- (2) 駅まで車で送って行きましょうか。
Should I take you to the station in my car?
- (3) あいつは居眠りをして上司に叱られてしまった。(His boss で始めて)
His boss told him off [was angry with him] because he was nodding [dozing] off at his desk in the office.
- (4) トムの姉は予想していたよりも若く見える。
Tom's sister looks younger than I expected [had expected].
- (5) 雨がやんでくれないかなあ。(I wish で始めて)
I wish it would stop raining.
- (6) その他のスタッフはその計画の実行に賛成した。(carry out を用いて)
The rest of the staff [The other members of the staff] have agreed to carry out the plan.
- (7) 私はあなたの意見に賛成します。
I agree with your opinion.
- (8) 私はこれまでに「鼻」を読んだことがある。
I have read *Hana*.
- (9) ここから駅までは遠い。
The station is a long way away [off] from here.
- (10) 野口英世は英国に行ったことがあった。
Noguchi Hideyo went to England.
- (11) 三島市は、1年を通じて気候が温暖だ。
Mishima City enjoys [boasts] a warm [mild] climate the year around [throughout the year; all the year around]. [They have a warm climate the year around in Mishima City.]

解説

◆本問はこの1年間の自由英作文で間違いが頻発に起こったものを、和文英訳の形にしたものである。

- (1) その2人は話をすれば、必ずけんかになる。(talk を用いて)
Whenever [Every time] they **talk to** each other, the two have an argument.
「～すれば必ず…する」
○ **Whenever [Every time] S + V, S + V.**
○ ~ **never … (現在形) [cannot … (原形)] without …ing**
○ talk は自動詞。
○ 「お互いに」の日本語に対応する each other [one another] は、副詞句ではなく**代名詞句**。

- したがって talk **to** each other.
- (2) 駅まで車で送って行きましょうか。
Should I **take** you to the station in my car?
○「～しましょうか」Should [Shall] I ~?
○「送る」といっても「送って行く」の意味で、自分もそこに行く場合は、send でなく take を用いる。
○目的地がすでに情報として与えられているのなら bring を用いる。
○take と bring との関係は、go と come との関係に等しい。
- (3) あいつは居眠りをして上司に叱られてしまった。(His boss で始めて)
His boss **told him off** [**was angry with him**] because he was nodding [dozing] off at his desk in the office.
○「叱る」と聞くとすぐに **scold** としてしまう者が多いが、**scold** は叱る対象が子供の場合に用いられる点に注意。
○大人が対象の場合は、
 tell ~ off / **be angry with** (日常表現)
 criticize (ややフォーマル)
 reprimand [réprəmənd] (きわめてフォーマル)
 を用いる。
- (4) トムの姉は予想していたよりも若く見える。
Tom's sister looks younger than I **expected** [**had expected**].
○Tom's sister looks younger than I **expected**. は正しいが、
 than I **have expected** は不可。
○「現在完了形」が不可なのは、「私の予想」がこの文を発話した時点においても続いていることになってしまうからである。
○しかし、「過去完了形」を用いた Tom's sister **looks** younger than I **had expected**. は正しい英語である。
○looks と had expected が1つの文で用いられているのは、一見間違いのように見えるが、この文においては、実際に表現されていない。
 I first set eyes on her. (私は初めてトムの姉を見た。)
 という文が中間段階にあると考えることができる。
○①「あらかじめトムの姉の様子を予想していた」(過去完了)
 ②「現実にトムの姉を見た」(過去形)
 ③「トムの姉はより若く見える」(現在)
 の3つの時点のうち、言語表現の表面に扱われるのが①、③だけと考えることができる。
○この種の過去完了形の例をあげておく。
 The book is as good as I **had hoped**. (この本は期待していた通りだ。)
- (5) 雨がやんでくれないかなあ。(I wish で始めて)
I wish it **would stop** raining.

○背景に It will not stop raining. という文が潜在すると考えて、

I wish + **仮定法** ….

という枠組みにはめ込めばよい。

○この will は未来においてこうなると現在思っているのだから、「現在形」である。

そのカコケイダカラ、過去形の would なのである。

- (6) その他のスタッフはその計画の実行に賛成した。(carry out を用いて)

The rest of the staff [The other members of the staff] have **agreed to** carry out the plan.

○「スタッフ」= staff と覚えている者が多いが、staff は集合名詞であり、一人一人のスタッフを示すことはない。

○したがって、「その他のスタッフ」を The other staffs とすることはできない。

○「その他のスタッフ」に対応する英語は、

① the other members of the staff

または

② the rest of the staff

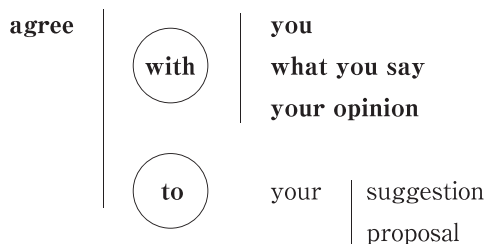
である。

②の場合 the rest は複数を示すが、× the rests とはできない点に注意。

- (7) 私はあなたの意見に賛成します。

I **agree with** your opinion.

○“agree with + 人”, “agree to + 物” というのは初学者が犯す誤りの1つ。



の基本パターンをまず覚える。より厳密に言えば、自分もその行為に参加しなくてはならないのなら **to**, そうでなければ **with** である。

- (8) 私はこれまでに「鼻」を読んだことがある。

I have read *Hana*.

○ **ever** = **at any time** であるから、慣用表現以外では、平叙文肯定形では用いられない。

- (9) ここから駅までは遠い。

The station is **a long way away** [off] from here.

○(×) The station is far from here. とする者が多いが、far は普通の肯定文では用いられない。

○ far が一般的に用いられるのは、

not far from here (否定文)

How far ... ? (疑問文)

If ~ is far ..., (条件文)

so far ; too far (so, too が修飾)

の場合である。

○普通の肯定文では,

a long way away [off]

が普通。

- (10) 野口英世は英国に行ったことがあった。

Noguchi Hideyo **went** to England.

○故人には現在完了形は用いない。過去形を用いる。

○「~したことがあった」だから過去完了形と思った者は根本的な学力不足。

- (11) 三島市は, 1 年を通じて気候が温暖だ。

Mishima City enjoys [boasts] **a warm climate** the year around [throughout the year; all the year around].

[They have **a warm climate** the year around in Mishima City.]

○ **weather** (天気) は形容詞が付いても不可算名詞であることで頻出。

cf. **a long spell of nice weather** (好天続き)

○しかし, **climate** (気候) は一般的には「**可算名詞**」である。

○「温暖な気候」は a warm [mild; temperate] climate.

【配点】 22 点 (各 2 点)

【4】

解答

- (1) イギリスで生活していると, すべての人が実によくルールを守るということに感嘆せざるを得ない。

While living in England, I always admire [admired] how well everyone observes [observed] the rules.

- (2) 9 時を 1 分遅れてもだめである

no admittance to the room is [was] allowed if I come [came] one minute after nine

- (3) 大急ぎでしますから入れてください, と言っても通じない。

Then, I say [said], "Please let me in; I will finish the meal in a great hurry," but they will [would] turn me down.

- (4) 私に対する個人的な気持ちと, ルールを守るといふこととはまったく別なのである。

Their personal feelings toward me is [was] one thing but to observe the rules (is [was]) quite another.

- (5) ああ, 昔はよかった

Those were the good old days.

◆本問は京大レベルの和文英訳を扱った。

○全文を読むと、イギリスの描写は、過去に起こったこととわかる。

○したがって、時制は、直接話法の所以外は「過去時制」が最適。

○しかし、「劇的現在」と考えて、現在時制で書いても間違いではない。

- (1) イギリスで生活していると、すべての人が実によくルールを守ることに関心をもつ。

While living in England, I always admire [admired] how well everyone observes [observed] the rules.

○「よくルールを守る」の「ルール」はイギリスの特定のルールすべてと考えて the rules.

○「よくルールを守る」は、**observe the rules well**.

○「～に感嘆する」は **admire**.

○この目的語に、感嘆文の **how well everyone observes [observed] the rules** が組み込まれたと考える。

- (2) 9時を1分遅れてもだめである

no admittance to the room is [was] allowed if I come [came] one minute after nine

○主語は、個人の経験と考えれば **I**、一般と考えれば **you** または **we**。ここではどちらも可。

○「9時を1分遅れても」**if I come [came] one minute after nine**

○later than nine よりも **after nine** の方が普通。

○「1分」は文字通り「1分」なので、a minute ではなくて、**one minute**。

○a minute は、正しくは「およそ1分」の意味である。

○「だめである」は、「締め出しをくう」ということなので、I am [was] shut out でも可だが、「入室が許されない」の意味の決まり文句の **no admittance to the room is [was] allowed** がはるかによい。

○この部分を **even if** ～とすることはできない。

○以下の例文を見てほしい。

○**Even if** you are tired, you have to work.

(= I don't know whether you are tired or not, you have to work.)

○**Even though** you are tired, you have to work.

(= I know you are tired, but you have to work.)

○この例を見てわかるように、even if A, B の論理的意味は、「Aでなくても、Bが言える」ということである。

○ここで even if I come [came] one minute after nine, とすると、「遅れなくても、入室できない」という意味になるので、不可なのである。

○かつて東大で出題された和文英訳の問題で確認しておこう。

○「たとえ気づいても、他人の欠点については、何も言わないのが世間というものなのだ。」

→ One pretends not to notice the faults of others, **if** one is aware of them.

(気づいていなければ当然知らないふりはできないので even if は不可。)

○ 「たとえ聞いても、彼は生返事しかしません。」

→ **If** I were to ask him, he would answer vaguely.

(聞かなければ生返事はできないので, even if は不可。)

(3) 大急ぎでしますから入れてください、と言っても通じない。

Then, I say [said], "Please let me in; I will finish the meal in a great hurry," but they will [would] turn me down.

○ 「大急ぎでしますから入れて下さい」は **"Please let me in; I will finish the meal in a great hurry."**

○ 「入れて下さい」は「容認」なので **let** を用いる。

○ 「大急ぎです」は「大急ぎで食事を終える」と考える。

○ 「食事」は food ではなく, **meal**。

○ 「大急ぎで」は **in a great hurry** [as quickly as possible; in a rush]

○ 「通じない」は, they will [would] not accept me で悪くないが, **turn ~ down** や **refuse** を用いて, 「はねつける」という意味合いを出す方がよりよい。

(4) 私に対する個人的な気持ちと、ルールを守ることとはまったく別なのである。

Their personal feelings toward me is [was] one thing but to observe the rules (is [was]) quite another.

○ 「私に対する個人的な気持ち」は, **their personal feelings toward me**。

○ 「AとBはまったく別だ」は,

A is [was] one thing	but	B (is [was]) quite another.
	and	
	while	
	;	

を用いる。

(5) ああ、昔はよかった

Those were the good old days.

「ああ、昔はよかった」に対する決まり文句は、

○ **Those were the good old days.**

○ **Give me the good old days.**

○ **Things used to be a lot better.** など

ただし、ここでは筆者がイギリスでの生活を懐かしんでいるので, I wish I went to England again. ぐらいでも十分合格点となる。

【配点】 10点 (各2点)

【5】 【自宅学習用参考問題】

解答

In Japan, just about everyone loves ramen. Ramen shops can be found nationwide. One bowl costs from around 500 to 1,000 yen. Ramen is popular with young and old alike. Some people in Japan eat ramen almost every day. One ramen fanatical high school student, whom I know very well, eats it at least twice a day.

解説

「次の日本語の内容を英語で記せ」という設問であるから、日本語の細部にとらわれる必要はない。

◇「ラーメンは日本の国民食と言われていますが、」

○「国民食」は「ほとんどすべての人がラーメンが大好きだ」と考えればよい。

○「が」は、ここでは順接。したがって、無視し、ここで1文を完結させればよい。

⇒ **In Japan, just about everyone loves ramen.**

◇「店は全国各地にあり」ここで1文とする。

○「店」はもちろん「ラーメン店」のことであるが、**store** を用いず、**shop** を用いて **ramen shops** とする。

○「無冠詞の複数形は無限大を表す」というルールから一般論となる。

○ **store** を用いないのは、**ramen stores** であれば、ラーメンの具材を扱う店となってしまうからである。「喫茶店」に対応する英語が **a coffee store** ではなく、**a coffee shop** であるのも、この理由から。

○「各地にある」は、

can be found	nationwide
	in all parts of the country
	everywhere in Japan
	throughout Japan
	far and wide

◇「1杯500円～1000円ほどで食べられます」

○「1杯」は **one bowl**

○ラーメンは食べ物というのは当たり前なので、「食べられる」という日本語には固執せず、「1杯～円だ」と考えて、**cost** + 「価格」の形を用いる。

cf. Each ticket costs one dollar. (切符1枚1ドルです。)

◇「お年寄りから子供まで、世代をこえて親しまれています」

○「世代をこえて」は「お年寄りから子供まで」とまったく同じ内容であるから、繰り返す必要はない。

○日本語を整理すれば「ラーメンはすべての世代で人気がある」となる。

○以上を英語にまとめれば、**Ramen is popular with young and old alike.** となる。

◇「日本人の中には毎日のように食べる人もいます」

○「日本人の中には」は、

Some people in Japan ～

Some Japanese ～

There are some people in Japan who ～ で書き出す。

- 「毎日のように」は「ほとんど毎日」と考えて **almost every day**。
- ◇「私のよく知る高校生の中には、1日に少なくとも2回は食べるというつわものもいるほどです。」
- 「つわもの」は本来「兵士」「勇気があって、非常に強い人」「ある方面で優れた手腕を発揮する人」という意味であるが、ラーメンを食べまくる高校生には当てはまらない定義である。
- ここでの「つわもの」は「狂信的にラーメンが好きな者」という意味なので、**fanatic** がよい。
- fanatic は本来名詞であるが形容詞としても用いられる。**fanatic** の本来の形容詞が **fanatical** である。
- fanatic [fanatical] を用いれば、この部分を英語に移すのは容易である。
- One ramen fanatic [fanatical] high school student, whom I know very well, eats it at least twice a day.

【6】

解答

The Japanese “randoseru” is not English. It comes from the Dutch “ransel”. [“Randoseru” in Japanese comes from “ransel” in Dutch.] It is a school backpack used for pupils to carry and protect their textbooks, notebooks and any other things.

(31 words [27 words])

解説

◆外来語の説明問題であるが、語源の情報が日本語で与えられているので、半分は和文英訳の問題である。残りはランドセルの機能を具体的に説明すればよい。

This is a straightforward question, but many students still have trouble giving basic descriptions of things they have never thought about describing. For something like this, the key of the description would be how the item is used. What it's made of or how it looks would provide a fuller description, but in 35 words there is probably no room for anything other than function (i.e. how it is used), starting with its general category, which in this is “backpack,” something everyone knows, and narrowing it down.

【配点】 12点

【7】

解答例

I agree that the rising level of violent crime is a problem, but I don't think we need to censor TV programs or movies. Though some criminals may be influenced by violence they see on TV or in movies, I don't believe that such instances are connected with the overall level of crime. There are other explanations for recent increases in violent crime

such as the troubled economy and weakened education system. (72 words)

別解

People, especially children, are influenced by what they see on TV and in movies, so we need laws to control what is seen. The biggest problem these days is violence. Most children would never even think of acts of extreme violence, so if they never see them they will probably never commit them. We have to face reality and admit that the mass media is a major part of our society's education system, so we need to be responsible and control it. (82 words)

解説

この種の問題で、最初に topic や opinion を具体的に書くべきかということが問題になる。具体的に言えば、

○ I think **it** is a good idea.

○ Yes, there should be **such laws**.

○ I don't think we need **them**.

では、具体的な topic や opinion がどこにも示されていない (the topic is nowhere to be found) だから、

○ We should not allow censorship of my kind.

○ There should be laws to protect children from violent TV programs.

のように具体的に書くべきという極論を耳にする。しかし、結論を言えば、これは制限語数や内容を考えて、ケースバイケースで考えるべき問題である。例えば、1998 年前期東大の問題では、次のように出題されている。

次の英語で示された見解に対して、賛成、反対、いずれかの意見を英語で述べよ。賛成の場合は I agree with this idea で、反対の場合は I disagree with this idea で書き出し、その語句を含めて 40 ～ 50 語程度にまとめること。文はいくつに分けてもよい。(内容よりも作文能力を問う問題であることに注意せよ。)

Young people in Japan should have the right to vote in elections from the age of eighteen. この種の問題の解き方については、付録【10】「自由英作文の心構え」を参照。

【配点】 12 点

添削問題

解答例

For years, advertisements have offered various kinds of “miracle” English learning methods. The advertisements have slogans and stories that make the methods seem very effective. They make very strong pushes. The ads themselves often use the language of their customers, many of whom were doubtful of the methods at first. Sometimes they use the life stories of the people who developed the methods. The ads usually say you can get your money back if you are not satisfied. Although the advertisements tell you to “think for yourself,” I believe you should avoid such methods because it is impossible to improve your English skills so easily. (105 words)

解説

- 英文の大意を日本語でまとめるのは訓練が必要であろうが、普通の日本語の大意をまとめるのは、難しいことではない。
- 本文は、筆者の主張に下線を引き、その後、一貫性のある英文に訳せばよい。
- 自由作文の名のもと、でたらめな自己流の英文で書いても無力であり、一定量の和文英訳の訓練が必要である。

This essay contains many long examples of the advertisements it describes. In your summary, avoid going into detail on specific examples. Instead, focus on the main points of the essay, most of which are found outside of the quotation marks and in the latter paragraphs.

全訳

Just when I thought I hadn't seen them lately, I found two in a row. Looks like they're still doing it. I'm talking about the ads for “miracle” English learning methods that take up an entire page of the newspaper.

The first product was a CD with a text by Sidney Sheldon and narration by Orson Welles. Those who know the ad are very familiar with it. It says that if you just listen to the CD, your English ability will miraculously improve. The enemy's prey is the huge catch of English fools. Its method is the fishing net that the public has just forgotten about.

These are the headlines in the ad. “Master English while having fun.” “The magical effect that both students and working adults miss out on if they don't know.” “Is it OK to become fluent in English this easily?” The natural response to this is that this would never work, they're just talking nonsense, and to this the enemy are already fully prepared with an answer. These are their preemptive moves.

They come out with lines such as, “At first anyone would cock their heads and say, “That sounds too easy,” and, “Any lessons that say you can effortlessly learn English have to be lies. But I can try it for free, so why not give it a shot?” But after you've tried it, look! “How could that ad be true?!” Or so I thought. But there's really English coming

out of my mouth. There's no way I can give up on this without finishing!" Huh, these guys aren't subtle at all.

Now, it's time for one more push! Don't loosen the reins! The preys (customers, or sometimes ducks) are just about to get away. Alright, let's write this: "The first time is the key! Wow, amazing! This is great!" And so they push and keep pushing. Of course there are lots of "miracles," but the really fake-looking "success stories" included in the ads are the ones you know well.

They offer beginner, pre-intermediate, and intermediate courses, with each lasting one year. You can quit anytime. More than 2.4 million learners are enrolled, or so they say, but how many people have quit and how many continue are unknown. There's no guarantee that you will improve, and if you don't like it you can quit anytime, OK? So they say, but they appear to be guaranteeing freedom, which is really irresponsible. There's a 10-day free trial, but when you enroll the monthly fee is 4,720 yen per month.

So, what do you think? "Nothing costs so much as what is given us," and although you "can't quit without finishing," you're free to quit anytime. You should keep in mind that there is nothing in this world, English or otherwise, that you can become able to do "playfully" or "magically." If you get roped in, you should only blame yourself.

Next, there is another listen-and-learn method called "Speed Learning." Its developer, Mr. O, explains it this way.

I myself wanted to speak English, and I used to study almost every day in junior high and high school, as well as using TV and radio. For a year and a half starting when I was 19, I attended an English conversation school. Then one time, I went to an English conversation coffeehouse in Ikebukuro and met a person from another country, but I couldn't make myself understood. I was completely shocked. I thought, "I've studied for seven years. You have to be kidding me!"

Blah, blah, blah. Then, he says that when he "gave up studying English altogether and decided to simply 'half-listen,'" in about a year he gained "the confidence to really understand spoken English," and it was from this that he developed "Speed Learning," but this is not good. Mr. O is deftly disavowing TV, radio, and school. Truly, the idea that you would "study almost every day in junior high and high school and with TV and radio," and on top of that "attend an English conversation school for a year and a half" but when you meet a foreigner you "can't make yourself understood" is difficult to imagine.

If we assume for a moment that this may be true (though it's not), it only means that Mr. O is amazingly stupid, and it's hardly the fault of TV, radio, or English conversation schools. And the idea that you'll suddenly develop "an ear for English" if you start half-listening to English for five minutes a day and gradually extend that time is difficult to imagine. If that were the case, you could keep a *rakugo* comedy tape playing all day, and

after three months you would be able to perform that *rakugo* routine.

Mr. O says that in his 20s, when he took out tapes from the Hibiya Library and listened to them for about three months, “English I didn’t understand started coming out of my mouth,” and from that experience he realized that he could learn to speak English simply by playing it in the background, but this is ridiculous. “English I didn’t understand started coming out of my mouth”?! What an absurd thing to say, you may think, but the enemy made an absurd ad.

The initial study materials for this method costs 9,870 yen, and the following lessons are 4,200 yen. There appears to be 48 lessons in total, but here they also make the claim that you can return the product and end the contract anytime. However, you get the hint that they obviously make enough money from the initial sale.

The point of these “miracle” learning methods is that each of them claims that you will learn English easily. Think carefully for yourself, it is said, but thinking for yourself at times like these means realising that these claims are too good to be true. If you think for a moment you can perhaps improve your English so easily, you’ve already been tricked.

【配点】 15 点



会員番号

氏 名